

# 第 1 章 調査の概要

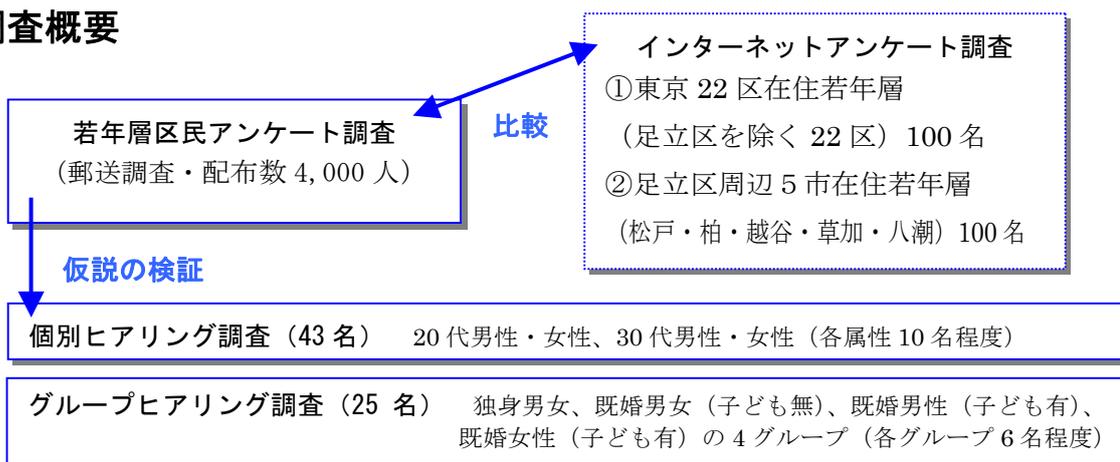
# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

足立区の若年層（20代、30代）区民は、区の将来を担う世代であり、若年層区民のライフスタイルや意識、区政に対する意向を把握することは、今後の区の施策の方向性を検討する上でも、非常に重要なことと考えられる。しかし、世論調査の回答率が低いなど、従来、若年層区民の意向が十分に把握しきれていなかった。そのため、若年層区民の生活実態や意向、区政への関心や地域活動などへの参加意向など、若年層の生の声を集めるため、若年層区民を対象を絞ったアンケート調査やヒアリング調査を実施した。また、区の若年層の特性を把握するため、足立区を除く東京都内22区在住及び、周辺市在住の若年層を対象としたインターネットアンケート調査を実施し、区内と区外の若年層の比較を行った。

これらの調査の結果をもとに、若年層区民が、今後も住み続けたいような足立区になるためのロードマップ（あだち未来図）を考察するとともに、今後、若年層区民に対してどのようなアプローチが有効であるか、どのような点に留意して施策を推進していけば効果的であるかなどについて、分析・検討を行った。

## 2 調査概要



	郵送アンケート調査	インターネットアンケート調査
調査対象	足立区在住の満20歳以上～40歳未満の男女（平成21年12月時点）	①東京22区在住（足立区を除く22区）100名 ②足立区周辺5市在住（松戸・柏・越谷・草加・八潮）100名
標本数	4,000 サンプル	200（各100）サンプル
調査対象者の抽出	足立区住民基本台帳・単純無作為抽出法	インターネット調査会社のモニターより調査対象該当者を無作為抽出
調査期間	平成21年12月12日～12月31日	平成22年1月19日～1月23日
調査方法	郵送配布郵送回収法	インターネットによるアンケート調査
有効回答数（回収率）	1,030 票（25.8%）	200（各100）票（100%）
調査内容	①若者のライフスタイル・生活実態 ②足立区のイメージ ③区政との接点、メディアツール ④足立区の取り組みなどに対する意向、定住に必要な方向性	①若者のライフスタイル・生活実態・意向 ②外から見た足立区のイメージ

◆調査内容の整理

調査項目		区民郵送 アンケート	インターネット アンケート	備考	ヒアリング調査
1 ライフスタイルや考え方	1 あなたの生活の中で中心となっていること	○	○		アンケートより描かれる足立区の若年層区民像に共感できるか
	2 日常生活の中で生きがいや張り合いを持っているか	○	○		
	3 現在のあなたの考え方に最も近いと思われる考え方	○	○		
	4 現在、ストレスや不安を感じていること	○	○		
	5 時間的なゆとりがあるか	○	○		
	6 経済的なゆとりがあるか	○	○		
	7 働きがいと働きやすさのどちらを重視するか	○			
	8 あなたの現在の仕事と生活・家庭の比重はどの程度か	○			
	9 上記設問の比重はあなたの理想と比較してどうか	○			
	10 結婚についてどう思うか	○	○		
	11 一週間のうち誰と多く直接会話するか	○			
	12 一週間のうちメールで誰と多く連絡をとりあうか	○			
	13 どのような情報に興味があるか	○	○		
	14 あなたが使いやすい情報入手媒体・方法は	○			
	15 インターネットの利用の頻度	○			
	16 情報入手の際に利用するサイト	○			
2 足立区について	1 足立区は暮らしやすい街か	○	○※1	世論調査※2と同設問	足立区のイメージについて  住み続けたいと思う街になるためには？
	2 今後も足立区に住み続けたいか	○	○※1	世論調査※2と同設問	
	3 子どもを足立区で育てたいか	○	○※1		
	3 (2) その理由は	○			
	4 子育てしやすい条件として何を重視するか	○	○		
	5 地球温暖化に関して、不安を感じているか	○			
	6 地球温暖化配慮行動は効果があると思うか	○			
	7 地球温暖化に配慮した行動をしているか	○	○		
	足立区のイメージ		○	世論調査※2と同設問	
	8 足立区に「愛着がある」と思う理由	○			
	9 (世論調査で) 足立区は「治安が悪い」とされている理由	○	○		
	10 自転車盗難にあったことがあるか	○	○		
	11 (世論調査で) 「公園や緑が多い」とされている理由	○			
12 足立区内にあったらいいなと思う場所	○				
13 足立区のブランド・シンボルとしてPRすべきもの	○				
3 区や地域との関わり	1 区の取組みの重要度・満足度	○	○※1		若者と足立区をつなぐコミュニケーションツールは？  効果的なアプローチ方法は？
	2 区民サービスの認知度	○			
	3 近所づきあいの程度	○	○		
	4 過去5年間に参加経験のある地域・ボランティア活動	○	○		
	5 過去5年間に参加したことのあるイベント	○			
	6 区内であれば行ってみたいイベント	○			

※1 それぞれ自分の住んでいるまちを対象とした設問としている

※2 足立区政に関する世論調査(毎年実施)を参照

### 3 調査結果の考察 ～あだち未来図～

#### (1) 若年層区民のライフスタイル・意向

##### 堅実・仕事中心の生活

- 生活で中心となっていることは、「仕事」(74.3%)、「家事」(47.3%)で、「趣味活動」は38.4%(東京22区では、「趣味活動」が65.0%と最も多い)

##### 家庭志向・結婚願望が強い

- 自分の考え方に最も近い生き方は、「しあわせな家庭生活を送りたい」(40.1%)、「経済的に豊かになりたい」(19.0%)
- 東京22区では、「しあわせな家庭生活」(29.0%)、「経済的に豊か」(24.0%)、「趣味やライフワークを大切に」(20.0%)と分散する傾向
- 周辺市では、「しあわせな家庭生活」(40.0%)、「経済的に豊か」(23.0%)、「趣味やライフワークを大切に」(17.0%)と足立区に類似
- 「結婚したい・している」(92.4%)と結婚願望が強い(東京22区、周辺市と比較して、「特に結婚したいとは思わない」が少ない)

##### ストレス・不安は、「自身の将来に対する漠然とした不安」、「家計・生活費」

- ストレスや不安に感じていることは、「自身の将来に対する漠然とした不安」(37.1%)、「家計・生活費」(35.1%)が多い
- 「将来に対する不安」が高いのは若者特有の傾向、東京22区、周辺市では、「家計・生活費」より「仕事」の方が高い

##### 生きがいや張り合いを持っている人は多い。

- 日常生活の中で、生きがいや張り合いを「持っている」人の割合は78.1%と高い(東京22区62.0%、周辺市59.0%)
- 生きがいや張り合いを「持っている」人の割合は、小学校入学前の子どもをもつ夫婦で最も高く、独身で低い

##### 関心のある情報は、「グルメ・ファッション・育児・教育」

- 関心がある情報は、「グルメ」(33.5%)、「ファッション」(32.8%)、「育児・教育」(28.3%)
- 男性では、「趣味・教養」「スポーツ」が、女性では、「ファッション」「グルメ」が多い傾向
- 東京22区・周辺市では「旅行・観光(44.0%)」の割合が最も高い

主な情報入手媒体  
はパソコン

- 使いやすい情報入手媒体は、「パソコン」(74.3%)が最も多い。
- 20歳代は「携帯」が5割以上と高く、30歳代女性では「知人や家族からの口コミ」が他の属性より高い。

近所づきあいの  
程度は比較的高い

- 近所づきあいの程度は、「道で顔を合わせたら挨拶する」が49.3%、独身・子どものない夫婦、賃貸マンション・アパート居住者などでは、「どんな人が住んでいるのか顔もよく知らない」が3割を超える。
- 東京22区は、「顔もよく知らない」が4割、周辺市は足立区と類似の傾向

社会配慮行動へ  
の意識が比較的高い

- 地球温暖化配慮行動に対して、「すすんで行動している」(39.6%)、「時々行動する」(40.3%)、特に、男性より女性の方が、20歳代より30歳代の方が、行動している人が多い傾向にある。
- 東京22区とは類似の傾向、周辺市と比較すると、足立区の方が、行動している人が多い傾向。

◆足立区のイメージ・評価

イメージ：  
「治安が悪い」

- 世論調査(足立区)では、「治安が悪い」(31.7%)が最も多く、次いで「買い物の便利な街」(28.9%)、「緑の豊かな街」(18.9%)が多い。
- 東京22区では、「治安が悪い」(47.0%)、「汚い街」(27.0%)と、悪いイメージが先行しており、周辺市では、「治安が悪い」(36.0%)、「特にない」(32.0%)、「人情味のある街」(23.0%)が多い。
- 「治安の悪さ」以外は、区民と区外の人々のイメージにはギャップが見られる。
- 「治安が悪い」イメージをもつ理由は、「なんとなくそういうイメージがある」が区内・区外両方で最も多い。

足立区は、  
暮らしやすく、  
住み続けたい街

- 「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」が約85%、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」が約75%(どちらも世論調査と同程度の割合)
- 居住歴の長さに関わらず、「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」と回答する人が多い。ただし、東京22区では自分の街が「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」が94%、周辺市でも84%といずれも高い。
- ブロック別では、伊興・西新井、竹の塚で、暮らしやすいという回答が多い。(世論調査では、保塚・六町、梅田で多く、意向の違いが見られる。)
- 足立区の暮らしやすさの理由は、「交通の便がよかった」「商業施設など買い物が便利」「人情味があり住んでいて楽しい」などの意見が多い。

区で子育てしたいかどうかは、意見が分かれる

- 「子どもを足立区で育てたい」（54.7％）は過半数であるが、東京 22 区（74％）、周辺市（64％）と比較すると低い。
- 「育てたい」理由は、「自分が生まれ育ったところ」「子育て支援の充実」「公園など区の施設の充実」「緑の豊かさ」などが多い。
- 「育てたくない」理由は、「教育レベルの低さ」「治安の悪さ」「子どものマナーやモラルの低さ」などが多い。
- 幼児を持つ親は「治安の悪さ」を、小学生以上の子どもを持つ親は、越境入学も視野にいれなければならない教育レベルの低さの問題を課題とする傾向が強い

重要な区の取り組みは、「子育て支援」・「学校教育対策」に集中

- 区の重要度が高い取り組みは、「子育て支援」（55.5％）、「学校教育対策」（39.7％）（世論調査では、「高齢者支援」（38.3％）「交通対策」（25.7％）が最も多い。）
- 「自然・緑化対策」への満足度は高い。

足立区のブランド・シンボルは花火大会・荒川（金八先生）・公園・緑・舎人ライナー・下町人情

- 区外の人に自慢できるものとしてあげられたのは、「花火大会」「荒川の土手」（金八先生の土手）「みどりの豊かさ」
- その他、ブランドとなりうるものは、「舎人ライナー」など交通の利便性、子育て施策の充実、大学誘致
- ブランドにはなりにくいですが、シンボリックなものとしてあげられたのは、「下町人情」、「公園」など

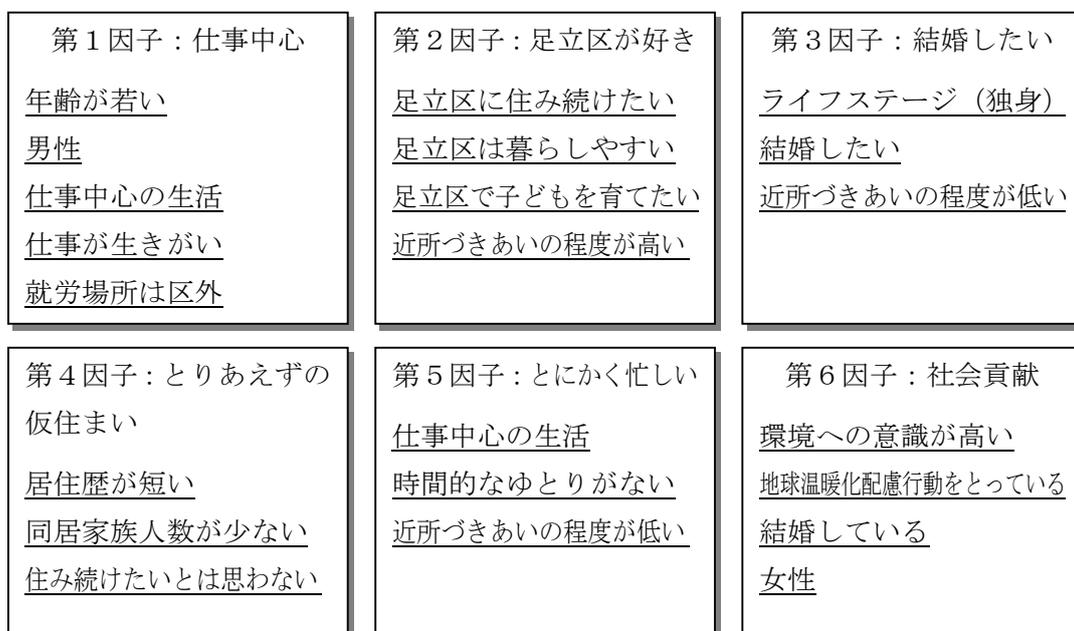
## (2) 4タイプの若年層の類型とアプローチの方向性

本調査では、性別、年齢による分析を行っているが、より深く若年層の実態に迫るため、多変量解析の手法を用いて、足立区の若年層を4つのタイプに類型化し、それぞれの特性や考え方、アプローチの方向性などについて分析した。

### ◆若者の類型

本調査では、因子分析の手法を用いて、設問間の相関関係を分析し、複数の設問の回答に影響を与えている6つの共通因子を抽出した。その上で、共通因子を用いたクラスター分析により4タイプの類型を導き出した。

※ただし、アンケート調査票の設計は、因子分析を目的として設計されたものではないため、因子分析結果はあくまで参考として捉え、ヒアリング調査により、4タイプの若年層類型の特性などについての調査、分析を行っている。



#### ① 仕事で忙しく他に関心が乏しい男性（未婚）

（生活の中心は仕事・区外へ通勤・近所づきあいの程度が低い・結婚願望は強い）

#### ② 仕事をしつつ、ある程度趣味と両立している女性（未婚）

（近所づきあいの程度が低い・結婚願望は強い）

#### ③ 家庭を持ち、子育て中だが、仕事が忙しい男性（既婚）

（区外へ通勤・近所づきあいの程度が低い）

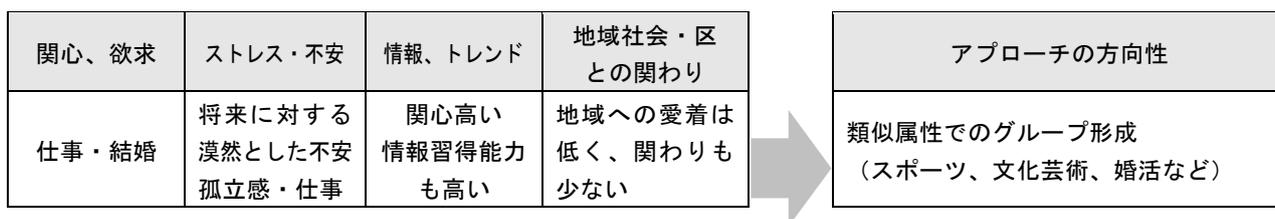
#### ④ 家庭を持ち、子育てに忙しい女性（既婚）

（近所づきあいの程度が高い・環境意識など社会貢献活動への意識も高い）

## ①仕事で忙しく他に関心が乏しい男性（未婚）

### <特性>

- ・仕事中心の生活をしながらも、仕事を生きがいと感じている層。そのため、それ以外の人間関係の醸成などには関心が低い。
- ・足立区に住んでいる理由は、実家が足立区のケースと、通勤の利便性と家賃などの兼ね合いから居住地として選択したケース（賃貸アパートなど）に二分される。
- ・地域への関心や関わりは薄く、仕事以外での社会への接点が少ない。
- ・おしゃれやグルメなどのトレンドには敏感であり、インターネットや携帯による情報取得能力は高い。



### <社会背景>

- ・これまでは、仕事中心の人間関係（職縁）が、仲間づくり、いきがづくり、さらには婚活までの役割を果たしてきていた。
- ・しかし、経済情勢の不安定さ、雇用環境の悪化により、職縁が果たす機能が希薄化し、若者の孤立感や仕事、生活への不安感につながっている。

### <アプローチにおける着眼点>

■スポーツや文化芸術などを通じ、趣味などのサークル、グループ形成により、生きがいや、人間関係の広がりを生み出すことが効果的であり、そういった集団への所属に対する潜在的な欲求は高いことが予測される。

- ・4つの層の中で最も地域への関心、関わりは薄い層と考えられる。
- ・しかし、将来への不安感も高く、職縁への期待も弱まっていることから、地域の中で、何らかの所属意識を芽生えさせていくことが精神的な支えになることが考えられる。
- ・同世代同士のサークル活動や婚活などを期待する意見が目だった層でもある。区内住民同士で結婚するような可能性が高まれば、区内への定住可能性も高まるのではないかといった意見もでた。
- ・この層は、まだ地域への定住感は弱い。身近な地域での「地縁」「知縁」が育つことにより、将来的にも地域に定着するのではないかと考えられる。
- ・トレンドにも敏感であり、仲間同士で遊んだり、食事、飲んだりといった交流の機会は行動の動機付けになると考えられる。

## ②仕事をしつつ、ある程度趣味も両立した女性（未婚）

### <特性>

- ・ファッションやグルメなどのトレンドに関心を持ち、仕事をしながら、稼いだお金を趣味に使うなど、適度なワーク・ライフ・バランスを保っている。
- ・足立区に住んでいる理由は、実家が足立区であるからというケースが多い。
- ・金銭的、時間的には比較的余裕があるが、地域への関わりはあまり持っていない。
- ・現在足立区に住んでいても、地域への愛着は必ずしも高くはない。良い地域イメージを求めて、機会があれば外に出たいとの志向を持っていると考えられる。

関心、欲求	ストレス・不安	情報、トレンド	地域社会・区との関わり	アプローチの方向性
結婚・ファッション・仕事	将来に対する漠然とした不安 孤立感	関心は非常に高い 情報取得能力も高い	地域への愛着は低い が、関わろうとする意識は 独身男性よりは高い	トレンド、おしゃれなイメージ形成 治安対策（安心生活感） グループ形成

### <社会背景>

- ・一般的には、女性の社会進出、晩婚化などの傾向により、結婚願望は必ずしも高くない。
- ・一方で、結婚を機に居住する地域が変わる可能性が高い層でもあり、将来的な定住可能性は低い。

### <アプローチにおける着眼点>

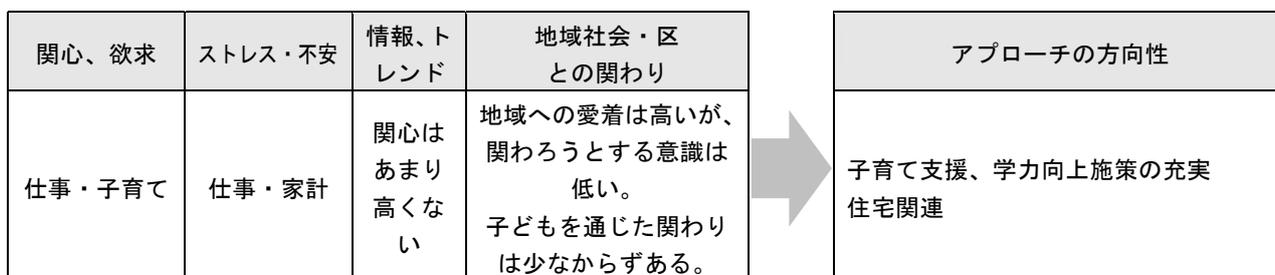
- この層が地域に関心を持つためには、トレンド、おしゃれなイメージを持つスポットを設定していくことが重要と考えられる。
- 若い女性としては、治安が悪いことが与えるマイナスイメージは大きい。夜道を安心して歩けるよう街灯を整備するなど、安心生活感の醸成や明るいまちづくりが効果的。

- ・例えば千住など、地域別にトレンド、おしゃれなイメージを醸成していくことで、長期的にこういった層の持つイメージも「足立区」から「〇〇（良いイメージの場所）がある足立区」に変わっていきけるのではないかと。
- ・地域への愛着を育むためには、趣味や、「癒し」「くつろぎ」「美容」などの関心の高い共通テーマによるグループ形成を媒介として、地域への愛着、関わりを拡大させていく方向性が有効と考えられる。また、母親と共に参加するケースが多いことも特徴として挙げられる。
- ・この層は、結婚しても足立区に住みたいと思ってもらうこと、結婚後、子どもが生まれた際などに実家のある足立区に戻りたいと思ってもらうことが大切。
- ・若い女性としては、治安が悪いことが与えるマイナスイメージは大きい。区内で一人暮らしを始める際に親が心配して安全面をチェックしてきたなどの例もあり、夜道を安心して歩けるよう街灯を整備するなど、明るいまちづくりも効果的と考えられる。

### ③家庭を持ち、子育て中だが、仕事が忙しい男性（既婚）

#### <特性>

- ・経済的、時間的ゆとりが非常に少ないことが特徴。
- ・家庭も大事にしたいが、家計を支える使命感もあり、仕事中心の生活を余儀なくされており、地域で生活する時間も少なくなっている。家庭や地域と関わる時間は少ない。
- ・通勤に便利な、交通の便が良いところが居住地として重視される傾向があり、交通の便と家賃等との兼ね合いから、この層の居住地選択として足立区が選ばれているケースは多い。家を購入するなど、現在の居住地でこれからも暮らしていこうという生活設計が見え始める年代でもあり、その結果として、比較的高い定住意向、それに伴った地域への愛着の高さが見られる。
- ・子どもがいるため、子育て、進学への関心は高い。地域の子育て環境、学校の質などにも関心が高まる。
- ・奥さんが働けるかどうか、子育て環境（保育所の充実）との関係は強いため、保育施設の充実には特に関心がある。



#### <社会環境>

- ・仕事は社内でもある程度重要なポジションにつくようになっており、忙しくなってくる年代。

#### <アプローチにおける着眼点>

- この層の地域への関心や、定住性については、④の層からの影響が支配的になってくることが想定されるため、④の層とあわせて配慮する必要
- 「家族と一緒に」「気軽に」参加できる活動が、地域活動への参加の鍵

- ・子育て支援施策の充実度を知ってもらうことが重要である。また、父親同士の交流機会の創出も、そういった情報への関心を高めることにも効果的と考えられる。
- ・この層の地域への関心や、定住性については、④の層からの影響が支配的になってくることが想定されるため、④の層とあわせて配慮する必要がある。
- ・休日の少ない時間に密度濃く家族と過ごせる場を求めている傾向があり、大型の設備の整った公園、ショッピングモールなどへの期待が高い。
- ・多忙な中でも、家族の生活の場となる地域への愛着、良くしようとする潜在的な意識は高いと考えられ、「家族と一緒に」「気軽に」参加できる活動であれば、地域活動への参加もある程度期待でき、それを通じて地域における家族間交流が深まると考えられる。

#### ④家庭を持ち、子育てに忙しい女性（既婚）

##### <特性>

- ・子育てが最大の関心事になっている。いわゆる公園デビューのような、同じ年代の子どもを持つ親同士の輪も形成され、保育園、幼稚園、小学校などを通じて地域との関わりも強い。
- ・夫の通勤の利便性と家賃等との兼ね合いから、結婚後、足立区に移り住んだケースは多い。
- ・子育ての精神的負担感が高く、子育て環境が良くないことは、この層の志向としては、それだけで転出のトリガーになり得ると考えられる。

関心、欲求	ストレス・不安	情報、トレンド	地域社会・区との関わり	アプローチの方向性
子育て・家計	将来への不安などは少ない 家計	関心は高い	地域への愛着は高く、関わろうとする意識は高い。特に子どもを通じて関わりが強い。	子育て支援、学力向上施策の充実と情報提供、治安対策（安心子育て感）

##### <社会環境>

- ・一般的に、結婚当時は、男性側の通勤の便が居住地選好の重要な点であるが、子育てが進むにしたがって、子育て環境、学校環境を選ぼうとするこの層の志向が居住地選好に大きく影響するようになる傾向がある。

##### <アプローチにおける着眼点>

- 地域活動への参加意欲も高く、アプローチしやすい年代と考えられる。
- 安心して子育てできる環境のイメージづくり、入学・進学させたい学校づくりが重要

- ・この層の定住性を高めるには、**子育て環境の充実が重要**となる。子育て環境に加え、**入学、進学させたい学校**があることも重要である。
- ・「母親仲間同士でのランチ」が日常的な交流としては重要な位置を占める層でもあり、**おしゃれな飲食店への関心が高い層**といえる。
- ・また、治安の悪さは、子どもを外で遊ばせたり、通学に対する不安にもつながるため、**安心して子育てできる環境イメージづくり**という意味では、治安対策も重要である。
- ・子どもに関わることの動機付けは効果が高いと考えられる。結婚当初、夫の側の理由により足立区内に転入してきた人がスムーズに地域の中で交流の輪に参加し、深めていけるようなきっかけが重要である。子育てサークルが充実していることもよいきっかけとなると考えられる。
- ・**地域活動への参加意欲も高い**が、子ども中心の行動パターンになるため、子どもと一緒に参加できるかが重要であり、託児にも配慮した気軽に参加できる活動へのニーズが高い。
- ・地域内のつながりがある程度強い地域もあるので、既存の「地縁」への受け込みを促していくことも重要であるが、積極的に地域の高齢者と関わっていききたいという意見もでており、この層から取り込んでいくことは有効と考えられる。

### (3) 区のイメージ向上に向けた方向性

#### <現状のイメージ>

「治安が悪い」というイメージが先行してしまう。理由は「何となく…」など、具体的に何か突出したものがあるわけではなく、マスコミなどによるイメージの浸透が最大の原因と考えられる。

#### <「治安が悪い」イメージの理由>

- ・過去の凶悪犯罪の印象や、自転車盗難など軽犯罪が多いなどの理由が挙げたが、実体験として、治安の悪さを実感、経験している人は多くはない。
- ・マスコミによるイメージの浸透、さらには「周囲から言われるから」という理由が大半を占める。周囲が持つイメージも多分にマスコミ等によるものと考えられる。
- ・給食費未納率や生活保護受給率が高いなどの特徴から、全体として、足立区に悪いイメージを集約させられている感は否めない。言い換えれば、現実より悪くイメージされているとも言える。
- ・足立区のユニークな治安対策も、マスコミによって、区の治安の悪さを強く印象付ける結果になってしまったという意見もある。

#### <「治安が悪い」と実感する人の特性>

- ・ヒアリング全体を通じて、「治安が悪い」理由を具体的に挙げる人は、父親、母親世代に多い傾向が見られた。「公園に若者達がたむろしているので、子どもを1人で遊ばせられない」、「若者のマナーが悪い。自分の子どもにはああなってほしくない」などといった意見が多く、子どもを持つ親の視点に立った「安心子育て感」は大きな課題であるといえる。
- ・一方で、男性を中心に、賃貸アパートなどで暮らす独身層からは、「(周囲の人から)治安が悪いと言われていたが、特に悪いとは思わない」といった意見がめだった。

## <アプローチの方向性>

■「足立区」のイメージを変えるという考え方ではなく、良いイメージで「〇〇がある足立区」、「ナンバーワンの〇〇」を印象付けていくことが効果的

- ・ 言葉にまとわりついたイメージの変革は難しい。何らかの情報発信をしたとしても、それがすべての人に一様に到達するわけではない。
- ・ そのため、「足立区」のイメージを変えるという考え方ではなく、良いイメージの「〇〇がある足立区」として印象付けていくことが効果的と考えられる。
- ・ 〇〇を何にするかが問題になるが、若者のまちになるなら「北千住」もしくは「千住」はどうか。「北千住」は、大学の集積が進み、若者向けの店舗が展開されれば、イメージが大きく変わることが期待できる。「千住」は、江戸時代を代表する宿場町の名前であり、レトロ感を持っているので、まちづくりと連携し、「高齢者の多い足立区」のイメージを活かし、巣鴨や浅草のように高齢者が集まるまちとしてみても面白い。
- ・ また、何か1つ良い意味でのナンバーワンがほしいという意見は多く、「(東京ナンバーワンの)〇〇がある足立区」の存在があることが望まれている。「〇〇があるから、遊びにおいで」と言えるものがあることが、区に対する誇りへとつながっていくと考えられる。
- ・ 「治安が悪い」のイメージ払拭は、短期的には難しい。現実として、街灯設置による夜でも明るい街路、公園の美化など、ビューティフル・ウィンドウズのさらなる徹底を地道に行っていくことが重要である。

■区民の定住促進という側面から考えると、まず重視すべきは「安心子育て感」

- ・ 足立区は治安が悪いというイメージは、「自分ではそう感じない」という男性独身層を中心にした層では、転出のトリガーにはなっていない。
- ・ 治安が悪いというイメージが、転出のトリガーになっている層は、「子どもの将来を考えると、足立区での子育ては不安」と考える親層が中心と考えられる。そのため、若年層区民の定住を促進するという観点からは、「安心子育て感」の醸成が、区の治安対策において重要なキーワードである。

#### (4) 若年層の区政への参加

##### <若者特有の参加動機>

- ・社会に対する不安等から、何らかの形で社会に貢献し、役に立っている実感を得られる活動への参加意向は持っていることが想定される。
- ・「自分みがき」的な内容には関心が高い。
- ・多くの人が参加したいボランティア活動の条件は「誰にでもできる」「簡単にできる」「今すぐ始められる」「準備が要らない」ということ。これにあてはまる活動であれば、多忙な若年層でも参加できる可能性がある。
- ・「カッコいい」「人に自慢できる」と思わせる点も、参加の動機付けとしては重要である。

##### <親世代に特徴的な参加動機>

- ・子育て中の親（特に女性）は、子育て、教育への関心が高い。そのため、子どもの教育や遊びに関わるような活動には関心が高いと考えられる。
- ・女性は、地域イメージの悪さを気にする傾向があり、地域の居住環境等を良くする取り組みへの潜在的な参加意欲はあると考えられる。
- ・足立区全体という広い視野での貢献は実感がわきにくい。身近なところ、目に見える効果が得られる社会貢献があると取り組みやすいとの意見もある。

##### <想定される若者を惹きつけるポイント>

キーワード	独身男性	独身女性	既婚男性	既婚女性
子育て・教育	△	○	◎	◎
地域の居住環境	×	○	○	◎
親子で参加	×	×	○	◎
自分みがき	◎	◎	○	○
ちょっとイイコト	○	◎	○	◎
おしゃれ	○	◎	○	◎
カッコいい・人に自慢できる	◎	○	◎	○
メリットあり	◎	△	△	△
出会い	◎	○	○	○

(◎：関心あり・惹きつけられる／○：やや関心あり／△：あまり関心なし／×：関心なし)

## <アプローチの方向性>

### ■「身近な所で、目に見える効果が得られる」「気軽に参加できる」「楽しんで親子で参加できる」「おしゃれな」社会貢献活動・地域活動のあり方

- ・公園の美化など、子どもと共に楽しみながらできるしかけが考えられる。イベントを開催し、みんなでかたづけ「開催前よりきれいに」をキャッチフレーズにするなど。(身近な所で、目に見える効果が得られ、楽しく参加できる社会貢献)
- ・「誰にでもできる」「簡単にできる」「今すぐ始められる」「準備も要らない」にあてはまり、あわせて、「ゲーム感覚のような、楽しめる」、「頑張るとメリットが生まれる何か」を付与できれば望ましい。
- ・「簡単なこと」と、「役に立っている実感が得られること」のバランスが人を動かしているといえる。(例：「ペットボトルのふたでポリオワクチン」は、「どうせ捨てるもの」で「人の命を救うことに役立つ」ことが強い動機付けになっていると考えられる。)
- ・参加による「認定」制度も有効である。金銭面でのメリットにつながるポイント制度(地域通貨のような)と連動できれば、経済的な不安を抱えている若年層の参加意欲を高めることにつながるのではないか。
- ・パソコンや携帯の操作でできる活動も若年層には受け入れられやすい。回答することでポイントが付き、区がメリットを与えることができれば、活発な登録モニター制度も可能だと考えられる。
- ・「若者が集う場」というのも一つのキーワードになる。「若者カフェ」のような、日常的な「縁側となる」たまり場が、各地域にできると面白い。経営、運営も若者自身が行い、若者感覚の発信基地になるとよいのではないか。
- ・「しゃべり場」のような、刺激的な意見交換ができる場があり、それを上手く発信できれば、若年層の共感も得られ、関心も高まるのではないか。今回のグループヒアリングをもっとエンターテイメント的に仕掛けることも面白い取り組みとなると考えられる。

### ■情報が目に飛び込んでくる「プッシュ型」の情報提供の重要性

- ・広報媒体としては、毎日通う駅のホームや町内会の掲示板などにポスターを貼るのが、結局一番効果的という意見が目立った。
- ・わざわざHPを開く時は、何か情報が欲しい場合に限るため、自分で情報を取りに行くプル型の情報提供手法では、結局、若年層区民には届かないことが多い。
- ・「自分で情報を得に行く」のではなく、「目に飛び込んでくる」「情報が入ってくる」プッシュ型の情報提供(掲示板・携帯Aメール等)が求められている。

## (5) 定住に向けた方向性

### 足立区若年層区民の特性についての考察

- 家庭での幸せを大切にする志向が強く、結婚願望も強い。一般的には晩婚化が進む中、東京 22 区と比較すると、足立区は、既に結婚している人の割合も、結婚したい人の割合も非常に高い数値を示している。このことから、現状の生活に何らかの不満を持っており、結婚による変化を期待する独身層が多いこと、結婚後、通勤の利便性、安価な地価などの条件の良さから、新居を足立区に構える新婚層が多いことなどが想定される。
- 不安やストレスに思うこととして「家計・生活費」が上位に挙がっていること、生活の中心は「仕事」であるとの回答が多いこと、経済的ゆとりが「ない」、「あまりない」と答えた人が多いことなどから、経済的にあまりゆとりがなく、仕事に追われる毎日を送っている若年層区民が比較的多いことが想定される。さらに、共働きが一般的な夫婦のあり方になっている傾向が見られ、保育所の充実が若年層夫婦には必須の条件となっている。  
関心のある情報として、「旅行・観光」「趣味・教養」が、東京 22 区、周辺市などでは比較的高い数値を示していたのに対し、足立区では、「ファッション」「グルメ」に関心が集中していたことも、上述のような層が多いことから、比較のお手軽なプチ贅沢を好む傾向があることが原因と考えられる。
- 日常生活の中で、生きがいや張り合いを持っている人は 78.1%であり、東京 22 区 62%、周辺市 59%と比較すると、非常に高い数値を示している。特に、生きがいや張り合いを持っていると答えた人は、小学校入学前の子どもがいる夫婦に顕著に多く、忙しくても、家族とのふれあいが多いこの時期に、生きがいや張り合いを感じる人が多いことがうかがえる。
- 足立区の近所づきあいの程度は、東京 22 区では、「顔もよく知らない」が 4 割であるのに対して、足立区では 26.9%であり、「道で顔をあわせたら挨拶する」が 49.3%と多く、近所づきあいの程度は比較的高い傾向が見られる。ヒアリングからも「東京 23 区の中では、地域のつながりがあるほうだと思う」「地域の人が親切」などの意見がでている。近所づきあいが多いのは、比較的古い街が多く下町人情気質が残っていること、高齢者層が多いこと、小さな子どもをもつファミリー層が多く住んでいることなどが原因として考えられ、足立区の強みであることがうかがえる。
- 地球温暖化配慮行動の程度を、社会配慮行動への参加意向として捉えると、「すすんで・時々」行動している人の割合が、足立区で 79.9%、東京 22 区では 72%、周辺市では、63%となっており、足立区で高い数値を示している。ただし、男性より女性で参加意向が高い傾向があること、東京 22 区の回答者属性と足立区の属性を比較すると、足立区の回答者属性には女性が多いことを考慮すると、参加意向の高さを足立区民の特性と捉えるのは難しい。

## 4 類型別区民の特性についての考察

### ①仕事で忙しく他に関心が乏しい男性（未婚）

- 鉄道網の充実と地価、生活利便性とのバランスより外から転入。
- 賃貸アパートなどに住み、毎日区外へ仕事に出かける。地域との交流はほとんどない。
- 今後、交通の便、商業施設の充実など、生活利便性の向上や賑わいのある街になることを望んでいる。
- 若者の集まる場、同世代、類似性のあるグループ形成などへの潜在的欲求は高い。ただし、自分から積極的な行動を起こさない傾向も見られ、いかにグループなどへ引っ張りこめるかが課題でもある。

### ②仕事をしつつ、ある程度趣味も両立した女性（未婚）

- 足立区出身者で、家族と同居している人が比較的多い。
- 周囲からのイメージの悪さ（「治安が悪い」）を懸念している。女性目線で、治安の悪さを実感している人も多く、安心して生活できる「安心生活感」が重要と考えられる。
- タバコのポイ捨てが多い、駅が汚いなど、まちの汚さを不満に思う傾向が強く「清潔で明るいイメージ」を好む傾向が見られる。
- 地域のイベント・ボランティア活動などへの参加意向は比較的高い。特に、「おしゃれ」「イイコトしてる」というイメージに惹かれる傾向があるため、「おしゃれなエコ」といった方向性の活動への関心は高いことが考えられる。
- 今後、結婚を機に足立区を転出する人が多いことが想定される。子育ての場所として、実家のある足立に戻ってきたいと思ってもらえるかが課題としてあげられる。

### ③家庭を持ち、子育て中だが、仕事が忙しい男性（既婚）

- 鉄道網の充実と地価、生活利便性とのバランスより転入。家庭を持ち、新居を足立区に構えたという人も多い。
- 今後、足立区で暮らしていくという意向を持っており、そういう意味での愛着が芽生えている。
- 今後、足立区に住み続けるにあたり、子育て環境の充実や、学校教育レベルの向上が最大の関心事であり、懸念でもある。
- 地域との関わりはあまりないが、子どもとの関わりの中で地域へ参入しているケースも多い。パパ同士での交流など、あまり負担のかからない形で、地域の中でのつながりを育てたいという思いも強い。

### ④家庭を持ち、子育てに忙しい女性（既婚）

- 結婚を機に、夫の通勤の便などの理由から、転入。
- 転入当初は治安の悪さなどの噂を聞き、良いイメージを持っていなかったものの、ママ友などのつながりができ、地域への愛着は人とのつながりの中で育まれている。
- 今後、足立区に住み続けるにあたり、（③以上に、）子育て環境の充実、学校教育レベルの向上が最大の関心事であり、懸念でもある。子どもの将来を考えると、転出も考えるという人も少なくない。
- 地域や社会に対しては、積極的な参加意向を示している。また、子どもと共に参加すること、参加できるような環境の整備を望んでいる。

## 定住へ向けた3つの方向性

### 住み続けたい・戻ってきたい足立区へ ～区のイメージ向上～

- 足立区は広く、多様な地域が存在するため、個々の地域の「良いところ」をくっきりさせた、めりはりをつけた区の空間イメージの形成が必要と考えられる。また、「足立区」に浸透している治安の悪さというイメージを払拭する足がかりとして、「北千住」「舎人ライナー」「荒川の土手」など、現在、足立のいい所として認識されている場所を、足立区のイメージを引っ張るイメージリーダーとしてうまく活用・PRしていくことが効果的と考えられる。
- 住み続けたい、戻ってきたい足立区となるためには、「安心生活空間」としての区のイメージが区民に浸透することが必要。現状では、人情味のあるまち、緑や公園の多いまちというイメージはそこに結びついているものとして評価できる。安心生活空間のイメージ形成につながる地道な取り組みも含めた治安対策が必要である。

### 子育ての場として選ばれる足立区へ ～安心子育て感の創出～

- 足立区の若年層はファミリー志向が強く、区の施策への要望も、子育て・学校教育対策に集中したことから、子育て環境の充実、学校教育対策の推進は、やはり必須である。
- 子育て環境の充実については、保育園の待機児童の対策、子育て環境という側面からの治安対策などが重要視されている。
- 区内の学校の学力が低いことは、母親層が大いに懸念するところであり、ヒアリング等では、子育て支援への要望より、むしろ学校教育対策に関わる要望が集中した。公立の中学校・高校の質の向上、大学の誘致などを促進させ、子どもの学力向上に力を入れる区となることは、大きなイメージ向上につながる考えられる。
- また、量的には充実している公園の質の向上が、子育て環境整備の一つとしても受け入れられやすく、定住促進に向けた環境整備としては有効であると考えられる。

### 若者が集うまち・足立区へ ～若者感覚の切り口で～

- 本調査では、将来への漠然とした不安、孤独感を持つ若年層区民像が浮かびあがってきた。特に、男性を中心に独身層は、地域への関心などは薄く、参加意欲もない一方で、「区内に住む若者の交流会などがあれば参加したい」などの意見も多く、出会いを求める傾向が見られる。
- 若者同士、パパ同士、ママ同士など、同じ属性同士や同じ趣味を持つもの同士で集まれる場やグループ形成が望まれている。
- 若者が集う場をキーワードに、「若者カフェ」のような日常的な若者のたまり場が、各地域にできると面白い。経営、運営も若者自身が行い、若者感覚の発信基地になれば、気軽に集える場として機能することが考えられる。

## (6) 若者の声 (アンケート自由記入・ヒアリングより抜粋)

### なんとなく足立が好き

- 足立区にしか住んだことがありません、親の代から。なんとなく好きです。
- 足立区に引越して来るまでは正直あまり良いイメージがなく、周りの反応もそうであったが、**実際生活してみると住みやすい所だ**と思った。 ■ 足立区に帰ってホッとする。安心して夕飯食べたくなる。 ■ あまり都会すぎないところもお気に入り。 ■ これからも結婚、出産をしても足立区に住み続けたい。 ■ 新宿、渋谷とは違ったよさがある。住めば都。 ■ 他県を転々しましたが、やはり足立区が住みやすく、今年の夏戻ってきました。 ■ どこにでかけても、足立区がいいなとやっぱり思ってしまうのはなぜ? ■ 何となくのんびり。静かで落ち着く ■ コンパクトにまとまっていて良い街。 ■ 派手でない所が自分には合っている。 ■ 比較的物価が安く、東京の中でも肩ひじはらず、住みやすい。 ■ 物価が安くて、家賃も安い。 ■ 余力はある、変わっていくまちだと思う。 ■ 画一的な都会ではないところが、好きです。 ■ 気取らなくていい。着飾って出る必要のないまち。 ■ 下町っぽさと都会っぽさがうまく混ざっている ■ **適度に田舎で適度に都会**

### 治安というよりマナーの悪さ?

- 一番私が気になったことは「タバコのポイ捨て」や「歩きタバコ」をしている人が多いという事です。
- 駅前の治安の悪さ。公園での浮浪者をどうにかして欲しい。 ■ 街灯が少なく、夜に怖い思いをした。
- **公園**で若者が夜たむろしている ■ 栄えている所とそうでない所、治安の良い所とそうでない所がはっきり分かれてしまっているように感じます (地域格差) ■ 自転車のマナーが、大人子供問わず悪い ■ 治安については、住んでみれば悪くないという印象。 ■ 治安を良くすることが一番。 ■ 人として当然のマナーを持ってない人が多い。 ■ もっと街灯を増やして。 ■ 友人に「治安が悪い足立区」と言われる。

## 賑やかな街・遊べる街になってほしい

■ アウトレットモールがほしい、友人と食事も出来る。 ■ 足立区に住んでいるから遊びにおいでよといえるまちになってほしい ■ 足立区内でもっとたくさんフリーマーケットを開催してほしい、毎週土日あってもいいくらい。 ■ お化け煙突のイルミネーションよかった ■ 北千住、西新井の活性化。 ■ 気持ちが発散できる街、夢がある街を作ってください。 ■ 区内におしゃれな場所がなさすぎる。 ■ 商店街もさびしい感じで、もっと賑わってほしい ■ 商店街の活性化 ■ 商店街の人たちに育ててもらった ■ 新足立区、昔と違う足立区を打ち出してほしい。 ■ スーパーや飲食店をもっとたくさん建ててほしい ■ 大学誘致や新しいマンション建設ではなく、便利に買い物ができるようにしてほしい。 ■ B級グルメストリートを作って欲しい！ ■ 誇りはある、これから成長、発展していくという意味で。

## 下町人情がお気に入り

■ 歩いているとみんなに声をかけてもらえる。 ■ 色々イベントなどがあり、地域のつながりが深いように思います。 ■ 近所の人親切。 ■ 下町の人情あふれる宿場町通りを散歩していると、足立区に生まれてよかったと思う。 ■ 住んでみて、お祭りとか小さな工場が多いとか伝統芸能があるというのは、良いところだと思う。日光街道、千住宿場町、おばけ煙突。 ■ 人と人との横のつながりが都内では強いほうかもしれない。

## 公園・荒川の土手、自然の多さは誇り

■ 荒川の河川敷を週末畑にし開放してほしい。 ■ 荒川土手でジョギング ■ 金八先生の土手のある所 ■ 公園が多いこともいいですが、自然のままのところも残ることが足立区らしさ。 ■ 自然の多さは誇り。 ■ すぐ近くに荒川があり、自然に恵まれていること ■ 土手が好き。 ■ 舎人公園 ■ 緑も多い公園もたくさんあるし、子どもにもいいと思う

## 交通の利便性は生活には必須

■足立区を東西に走るバス。 ■足立区役所へのアクセスが不便。 ■北千住駅の朝の混雑がもう少し良くなるとより良いと思います。 ■交通が不便で暮らしやすいとは思わない。 ■自転車で買い物にくい。特に駅周辺は自転車が止められないので、止めやすい駐輪場があるとうれしいです。 ■自転車専用道路を整備して車も人も自転車も安心できる道づくりをしてほしいです。 ■人口ばかり増やして交通の便は悪いままなのはどうかと思う。 ■竹ノ塚の大踏切を何とかしてほしい。 ■都会に出やすい。 ■舎人ライナーが開通し、便利になった。 ■歩行者、車、自転車が入り乱れて通らなくてはならない道路や交差点をどうにかしてほしい。 ■歩道をもっと作ってほしい。 ■まだ愛着はもてない。不便さが先に来てしまう。

## やっぱり子育てが大事

■育児で自分の時間はない。 ■医療費無料、母親学級、保健所での幼児対象のイベント（離乳食、歯科など）子育てサロンなどの講座など楽しんでいます。学力が低いイメージ。 ■学校がオープンになって、地域住民が気軽に入れるようになるといい。学校で基礎を徹底的に身につけさせてほしいです。 ■学校により学力の差がスゴいので、レベルを統一してもらいたい。 ■子育てしやすい＝住環境が良い区と思われる足立区を目指してほしい。 ■子育てする環境としては、2才の子供を持つ母親としては大変満足しています。 ■子育て支援にお金をバラまくよりも、制度の充実に使って欲しい。 ■子どもが多くてにぎやか。 ■子どもが動物などと触れ合える機会が少なくなっているので、生き物にふれあえるような場所が欲しい。 ■子ども達に親や地域で何かしてあげたい。 ■子供の学力向上に力を入れてほしい。 ■子供の保育料が高い。 ■子どもはなるべく幼馴染がいるような環境で育てたいので、今の場所に住み続けたいと思う。 ■出産できる病院を増やしてほしい。 ■将来は子どもを預けて働きたい。待機児童が多く、共働き家庭には住みにくい。 ■保育園の空きがなく、ずっと待機している状態で、このままだと区外に転居せざるを得ません。何とか保育園の拡充をお願いします。 ■保育所が少なすぎる。共働きの出来るようにしてほしい。 ■保育料をもう少し安くしたい。仕事をすればするほど上がるので結局出ていってしまい、厳しいです。

## イベント - 現状は花火大会、今後は荒川で親子イベントを

■足立の花火が毎年平日なので一度も行ったことがありません。 ■足立の花火大会は毎年楽しみ。  
■荒川の土手などでやるイベントがあれば、子どもを連れて参加したい。 ■親子で参加できるイベントがあれば良い、区主催の子どもの習い事もあればよい。 ■区のイベント（花火大会やトークショー）などはやめて、そのお金で保育園のおもちゃを買ったり、児童館などを整備したほうが有意義だと思う。 ■講座や教室は平日の午前が多く参加できない、土日にあれば良い。今年はエキゾチックフェアに行ってみたいです、楽しみにしています。 ■大規模な公園でのイベント、もっと人が集まるようなものを企画してPRしてほしいと思う。 ■小さな子供も参加できるゴミ拾いのイベントや打ち水作戦など、頻繁にやってほしい。 ■光の祭典は毎年見に行っている。 ■物づくりフェスタ、あだちフェスタに参加した。

## 広報

■Aメールは頻繁に活用。 ■お問い合わせコールあだちは、非常に使いやすい。 ■区報、HPはよく見る。 ■区報、ときめき、紙ベースのものがいい。 ■ケーブルテレビあだちが好き。 ■新聞をとっていない、ネットをひいていない人でも見る事の出来るような宣伝方法がよい  
■あだちん面白い。

## 若者の集まり

■地域活動への参加無し、情報も時間も無い。 ■地域のコミュニティづくりを後押ししてもらえると良いと思います。 ■地域の若いパパさんで集まって会合とか、軽くいっぱい飲みながらというようなことがあれば参加したい。 ■同世代とコミュニケーション。 ■母親学級やスポーツセンターで友達ができた。 ■母親同士のコミュニケーションの場が数多くあり、とても楽しく利用させて頂いています。  
■ボランティアに参加したくてHPは調べたが自分に合うものはなかった。 ■ボランティアや講座は20代、30代には日程が合わない。 ■より地域の人とコミュニケーションがとれるようなイベントがあれば防犯対策になると思います。 ■若い人が集えるものが必要。 ■足立区の事業サービスを見たら子育て支援は充実しているのに、私のような独身の若い人向けのサービスがほとんどないように感じた。